

## 1. 屋良朝苗日誌について

屋良朝苗日誌（以下「日誌」という。）とは、米国統治時代の琉球政府で初の公選主席、本土復帰後の沖縄県で初代の沖縄県知事を務めた屋良朝苗氏が、1953年（昭和28）1月から1985年（昭和60）10月までの三十年余りにわたって書きつづった125冊の日記とメモ帖類である。

日誌の原本は屋良氏の遺族により読谷村に寄贈され、沖縄県公文書館は原本から複製を作成して所蔵している。

## 2. 日誌の公開及び翻刻の利用について

### (ア)日誌の公開について

沖縄県公文書館では、手書きの文章を読みやすくするために、ワープロによる翻刻作業を進めている。本翻刻はその成果の一部である。

日誌は、沖縄県公文書館の設置及び管理に関する条例第11条の規定により、個人の秘密の保持その他合理的な理由により利用に供することが適当でないと判断される情報については黒塗り処理を行っている。

### (イ)翻刻の利用について

日誌の一部を出版物等に掲載しようとする者は、沖縄県公文書館管理規則第9条（出版物等への掲載）の規定により、あらかじめ「出版物等掲載許可申請書」を沖縄県公文書館指定管理者に提出し、その許可を受けなければならない。

翻刻に誤りが見つかった場合には、都度、改訂するものとする。その際には改訂箇所および改訂日が分かるようにする。

## 3. 凡例

### (ア)文体・語句・送り仮名について

- 語句は基本的に原文のまま表記した。
- 誤りと思われる語句は後ろに〔ママ〕と付した。
- 当て字は原則そのまま表記したが、分かりにくい場合には、〔 〕で正しい漢字を補足した。  
(例) 渡屋〔都屋〕
- 判読できない文字は、文字ごとに■で表記した。何文字かが不明な場合は、■■●〔■■■?〕のように表記した。
- 語句を補足したほうが意味が分かりやすい場合には、〔 〕で補足した。

（例）〔昭和〕43年

- 送り仮名は、意味が通る場合には訂正せずにそのまま表記した。
- 脱字がある場合には、〔 〕で補足した。

（イ）句読点について

- 句読点は書かれている通りに表記した。

（ウ）漢字の表記について

- 旧漢字はそのまま表記した。
- 略漢字は正しい漢字に直した。

（エ）書き損じ・見せ消しについて

- 屋良氏により書き損じが訂正されている場合には、訂正後の語句を表記した。
- 屋良氏による見せ消しは、そのまま残した。

（オ）改頁・改行・スペースについて

- 原本において日記の文章が次頁まで続いている場合は、翻刻においては改頁せずにそのまま続けた。
- 翻刻における改行は基本的に段落の前後のみとし、日誌原本にある改行とは必ずしも一致していない。
- 屋良氏自身が空けた文中のスペースはそのままとした。
- 段落の初めは一字空けた。

2019年3月31日

屋良朝苗日誌91 翻刻版

編集：沖縄県公文書館指定管理者公益財団法人沖縄県文化振興会

---

豚舎問題  
宜ノ湾市長 }  
北中村長 } 話し合い  
続メモ帖■に続く

### S. 51. 6. 24 知事満了の日

- 1、行政主席就任 S. 43. 12. 1日以来初代知事までの任期終る  
S43. 12. 1日～S51. 6. 24日まで約7年7ヶ月の長期に及ぶ。  
その間の特徴は沖縄の歴史的な大転換期、したがって世代り [ママ] の大激動期。健全な県政基盤の回復期と云うべき。
- 2、過ぐる7年7ヶ月は夢の間に過ぎた感じ。それは又余り目まぐるしい転換に即応し、身心共に余りにも急がしく時間を意識する暇が無かった事を意味するのではないか。一面その間に起った諸々の出来事を思い起して見ると長い期間ではなかったかとも思う。即ち復帰の実現、県政が軌道に乗った、記念行事の完了、残された而も基本的な問題の解決の基本的方向づけ、振興開発計画、土地利用計画、基地転用計画、離島振興開発 観光開発計画等等、そして道路港湾、水資源の開発、住宅その他建造物の激変、学校施設の充実向上等のはげしい変化等を思うと長い期間ではなかったかとも思う
- 3、6月24日、離任式、4時 県庁の庭で職員全員集って離任のあいさつ、副知事も24日辞職する事になったので2人 共にあいさつ、かく知事の重責から開放される。立ち並ぶ職員の紙ふぶきに送られて引あげる 然程深い感慨を受けないのはどうした事か 夕方、7時からマスコミと最後の別れのガーデンパーティー開催して一段落
- 4、最後の公舎でのガーデンパーティーを終り公舎にも上り込まずに応接間を通過して玄関から直ちに松川の自宅に引きあげる。さらば公舎よ 長い間御世話になりました 激動期にこの公舎の中で苦悩し続けて来たのだ。住宅としては住み心地芳ばしくなく殺風景だった。更に未練はない しかし健在に過ごせしめた住居だった 私は公舎に病臥した事は無かった しかし心の悩みは日々夜々と連続した。松川の内は改善中 ゴミっぽく、運び込んだ荷物で各室屋ごった返し、心がつかれる、早く整理しなければ。